

みよし市 市民協働部協働推進課

特定非営利活動法人 あいちNPO市民ネットワークセンター 協働事業

# 協働によるまちづくり推進事業 報告書

- 1 協働(NPO・市民活動団体)相談事業
- 2 まちづくり リーダー人材育成事業

2013 年3月

みよし市

## はじめに — 事業のねらいと概要 —

2010年度にスタートした「みよし市総合計画」では、「みんなで築くささえあいと活力の都市」と将来像を掲げ、分野別計画では、施策の進め方として「市民の役割・行政の役割」「協働の考え方」が記されています。これに基づき、「協働によるまちづくり推進事業」を実施しました。

まず、「市民の役割・行政の役割」「協働の考え方」を学ぶ人材育成事業である「市民力UPスクール」は、最終年の3年目を迎え、いよいよ協働事業の実践に至りました。

具体的には、昨年10月に実施された「第1回防災大会」を通して、協働のまちづくりにおける「課題の明確化」「人材の発掘」「継続」について、イベントを核に成果を収めることができました。また、協働のまちづくりに必要とされる「参加者間のつながり、地域の関係性を共に作っていく」という点でも、ヒントを得られました。今回の事業から明らかになった成果を踏まえながら、次なる段階としては、イベント以外の協働のまちづくりに必要となる「市民と行政の施策コミュニケーションに基づく協働のまちづくり」が、みよし市の今後のまちづくりの基本スタイルとして定着・発展していくことを期待したいと思います。

また、相談事業については、明確な相談目的を持った相談が増えてきています。その相談に確実に対応することにより、市民活動団体が一步前進することにつながりました。また、行政相談についても、具体的な事業に直結した相談が増え、相談内容が実際の協働のまちづくり事業に活かされるようになってきています。

本事業への皆様のご協力に対して、心から感謝申し上げますと共に、こうした協働のまちづくりに向けて、さらに皆様の力を結集していくことをお願い申し上げます。

平成25年3月

みよし市市民協働部協働推進課  
特定非営利活動法人 あいちNPO市民ネットワークセンター

---

# 1 相談事業

---

## 1)ねらい

総合計画に基づく、まちづくりへの市民参画を促進する上で、パートナーとなる市民・NPO・地域活動団体の公益活動を進める支援を活動に対するアドバイス、組織運営上のアドバイスなどを行いました。

相談を受けた内容から市民・NPO・地域活動団体の活動状況、および活動課題の把握、行政の事業実施における協働の可能性の把握と、市民・NPO・地域活動団体のまちづくりでの関心がどんな分野にあるかについても把握できる事業として位置づけました。

## 2)実施概要

市民、行政職員の双方が協働によるまちづくりを意識できる場所での実施を考慮し、協働推進課で定期相談を行うと共に、それ以外の場所での臨時相談を行いました。

- ・日時 ①定期相談 2012年4月～2013年3月の全12回 13:30～16:30  
②臨時相談 2012年4月～2013年3月の間で全4回 1回3時間
- ・場所 ①定期相談 みよし市役所 2階 協働推進課  
②臨時相談 みよし市内
- ・内容
  - ・NPO 団体等の活動相談
  - ・NPO 団体設立に関する相談
  - ・行政職員からの協働に関する相談
- ・対象
  - ・市民
  - ・市内でNPO活動・協働事業に取り組んでいたり、関心を持つ団体・個人・行政職員
- ・申し込み 随時、協働推進課で受付
- ・予約制 一人30分程度を基本として対応
- ・相談員 新谷千晶（NPO 法人 あいち NPO 市民ネットワークセンター）

## 3)相談内容報告

### ①市民活動団体からの相談

- ・相談数…1件（個人1件）
- ・分野…人権擁護1件

#### ■内容と対応

内 容	対 応
・女性を心理面で支援したい。 自分の考える活動の展開の仕方（病院との関係づくり）についてアドバイスがほしい。	・活動内容を整理して、活動を知っていただくためのパンフレットづくりについてアドバイスを行った。 ・活動を展開する上での組織の形について検討に向けた素案を提示した。 ・病院との関係づくりについては、活動の伝え方を主にアドバイスした、 ・活動の必要設定についても参考情報を提供した。

## ②NPO法人設立相談

- ・相談数…5件 1団体から計5回（その他にメール等にて4回対応）
- ・分野…学術・文化・芸術・スポーツ、子どもの健全育成 1件

### ■内容と対応

内 容	対 応
<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人化にあたって設立趣意書、定款、事業計画、収支予算書、費用捻出、登記についてのアドバイスがほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設立趣旨書については、NPO法人化する必要性・意義に基づいて活動内容を整理した。</li> <li>・定款については、目的について、また会員の種類及び会費の設定について、これまでのチーム運営との違いを踏まえて整理するためのアドバイスを行った。</li> <li>・運営に関わる専従者を配置する時期・形式・及びそのための費用捻出についてアドバイスした。</li> </ul>

## ③行政職員からの相談

- ・相談数…2件
- ・分野…1件（教育行政課、学校教育課）  
1件（子育て支援課）

内 容		対 応・成 果
教育行政課	天王小学校回収工事に伴う子どもの違憲聴取について（ワークショップの開催）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設的な当事者の声を聴取するワークショップが実施できた。</li> <li>・1回のワークショップでは不十分だという判断から、追加して教室アンケートとそれを踏まえた第2回目のワークショップを行った。</li> <li>・教室アンケートと第2回目のワークショップについては教育行政課の事業として行った。</li> </ul>
学校教育課		
子育て支援課	子どもの総合支援センター基本構想について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民意見と現状把握を十分に踏まえた基本構想となるための意見交換及びアドバイスを行った。</li> </ul>

## 4) 成果と課題、今後に向けた提案

### ■成果

- ・NPO設立を目指す団体への支援について、法人申請までの一連のアドバイスを行うことができた。
- ・行政職員からの相談については、具体的な事業に関わる相談であり、具体的な協働事業につなげていくためのアドバイスを行うことができた。

### ■課題・今後に向けた提案

- ・【NPO法人設立相談】 法人化するためには、定款や事業計画、予算策定が必要となり、それらは団体にとって将来を見据えたものとして十分な検討を行う必要があるため、その支援にあたっては時間や場所を固定した形での相談では限界がある。

・【行政職員からの相談】 効果的な相談につなげるためには、相談項目の背景・全体像、及び行政のねらいを共有できるような情報提供が必要である。

- ① 市民活動団体・NPO法人設立相談については、相談対応の日時・形に幅を持たせて実施されることが重要である。
- ② 行政職員からの相談については、担当課が単独で全ての協働を実践していくには課題があり、協働推進課と共に相談内容を明確化・整理することが有効である。
- ③ 具体的な協働事業について相談対応するにあたっては、各課の協働につながる事業に関する全体状況が把握できていることが有効であり、こうした各課の情報収集を行っていくことが重要である。

## 2 まちづくりリーダー人材育成事業

### 1)ねらい

- ①みよし市で、地域の課題解決を行政任せにせず、市民やさまざまな組織がともに考え、話し合い、力を出していく＝協働のまちづくりを進めるために、地域活動団体、市民活動団体、行政職員がともに学びあう。
- ②今年度は、昨年度の講座の成果として出来上がった「防災イベント」を協働で実施すると共に、その準備・運営の中で、さまざまな人や組織の力を活かす発想や力を高めることを目指す
- ③昨年度の講座をベースに、実施しようとしている「防災イベント」のイメージは以下の通り。
- ◇目的；若い人＝東海学園大学の大学生や、元気なシニア世代が、災害時に、高齢の要援護者を支えることができるように、まずは防災に対する意識づくりのイベントを行う。
- ◇実施内容；東海学園大学の学園祭（10/27）で、防災ボランティア活動のアピールを行う

### 2)実施概要

- ・2012年8月～12月の全6回 18:30～21:00、第4回のみ、東海学園大学にて終日
- ・場所 みよし市役所
- ・講師 下記表に記載
- ・受講者 市民●名（あいネット含む）、行政●名（協働推進課含む）

回	日程	テーマ	ねらい
1	8/23	みよしから始まる協働のまちづくり 山田厚志さん (株式会社山田組)	<p>■講義のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりイベントを準備する時に重要な視点・要素は何か。</li> <li>・必要な資源を協力してもらって関係づくりにおける心得・ポイントは、どんなことか。</li> </ul> <p>■ワーク 今、準備されているプログラムを題材に、以下を検討。 「どんな人に来てもらいたいか」「どのようなものが必要か」等</p>
2	9/11	まちづくりイベントの段取りと役割分担 大野裕史さん (NPO法人愛知ネット)	<p>■講義のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画（システム）の目的（機能）を設計の仕方</li> <li>・操作手順（プログラム）の作成の仕方 上記の昨日から操作手順に分解する 対策一覧表（To Do List）をつくる 作業・シゴトの設定の仕方</li> </ul> <p>■ワーク 今、準備されているプログラムを題材に、以下を検討。 ○企画の具体化、段取り、役割分担を設計した</p>

回	日程	テーマ	ねらい
3	9/27	<p>ボランティアの募集と対応</p> <p>織田元樹さん (NPO法人ボラ みみより情報局)</p>	<p>■講義のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアコーディネートの考え方</li> <li>・ボランティアコーディネートの手順</li> <li>・ボランティアコーディネートの実務（ボランティアする人の活動動機を意識する）</li> </ul> <p>■ワーク 今、準備されているプログラムを題材に、以下を検討。</p> <p>○ボランティア受入計画をつくる。</p>
4	10/27	<p>東海学園大学 東学祭にて「第1回防災大会」</p> <p>①防災クイズにチャレンジ ②震度7を体験しよう ③けむりのこわさを体験しよう ④バッククッキング 防災食を自分でつくろう ⑤出勤！ 子ども消防士 ⑥防災クイズの答えあわせ！ アンケート回収</p>	
5	11/27	<p>まちづくりイベントの評価と活かし方</p> <p>長谷部英司さん (札幌市職員)</p>	<p>■講義のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働の基本原則</li> <li>・協働の評価のポイント（事業成果とプロセス評価）</li> <li>・協働評価の意義と進め方</li> </ul> <p>■ワーク 実施したプロジェクトを題材に、以下を検討。</p> <p>○事業の成果とプロセス評価の両面から評価を行う</p>
6	12/13	<p>協働のまちづくりのための人材育成の評価</p>	<p>■今年度の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他のまちづくりイベントで、今回のような工夫ややり方を活かしていくにはどうしたらよいか。</li> </ul> <p>■3年間行ってきた人材育成事業を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を振り返って、人材育成の必要性をどう感じたか。また、この講座における学びを今後どのように協働のまちづくりに活かしていけるかを話し合う。</li> <li>・市長からの講評</li> </ul>

### 3)成果と課題 今後に向けた提案

#### ■第1期の研修の成果

---

##### A 最終回での発表からのポイント(行政職員グループ)

- ①地域課題の発見について、市民意見が有効だということに気づいた。中にはクレーム型の市民がいるが、課題を持ってきてくれる市民もいることが意識化できた。市民との対話的な姿勢を持ち向き合っていく必要性を学んだ。
- ②地域課題を行政が受けとめる前提としては、みよし市の公共サービスについて、現状維持をよしとせず、「どんな状態にしたいか」「制度と現実のギャップがどこにあるか」を考えようとする姿勢が必要である。そこから「対話の場を持つ」とする意志が生まれ、対話を元にその課題にあった協働を検討していくことができるという点が理解できた。
- ③地域の課題に気づき取り組む第一歩は「個人」から始まる。それが組織的な活動となり、また、異なる組織が協働する事業となっていく。それに対して、動き出したばかりの個人的な取り組みへの支援や、それを実際の事業の形にするコーディネーターを、行政の側にも、市民の側にも育てていく必要がある。

##### B Aを踏まえて、あいネットからの提案

- 上記の①②に関わるポイントは、政策コミュニケーションの機会「出前講座」を通して、進めていくことができる。その際、漫然と市民との対話の場に臨むのではなく、**課題の形を明確にするための情報把握・調査**を行政が行い、さらにそれらによって得られた情報を、「情報提供の目的・提供相手・タイミング」等を意識して階層化し、わかりやすく提供していくことをより一層進めていくべきである。

#### ■第2期の研修の成果

---

##### A 最終回での行政職員の発表からのポイント

- ①協働事業を企画する際に、直接対話を通してつくりあげる手法を学ぶことができた。違う立場の人が集まり検討することで、事業の発想や手法の点で広がりが見られた。
- ②協働事業をするにあたっては「課題の共有」が大切であることを再認識した。課題共有の機会は、出前講座等の「意見交換」の形に加え、イベント等で「たくさんの人が集まれる機会」をつくり、その中で共有していく方法も可能である。(=今回の防災大会もこれにあたる)
- ③第二期に学んだことが活かされている事例として、「認知症高齢者の徘徊高齢者搜索模擬訓練」がある。この事業を行うことで、訓練に関わった市民からの感想・声を拾うことができ、また、地域の関係性に気づく場ともなった。「協働事業」と「地域づくり」は一体化している。色々な主体が共通体験できる協働事業を行う内に、地域づくりができ、そして地域づくりの力が次なる協働に結びつくといった相乗効果がある。

##### B Aを踏まえた、あいネットからの提案

- ①協働のまちづくりを行うために、まず大切なのは「出会う」ことである。様々な出会いがあれば、そこから思わぬ発見がある。今回学んだことを活かしながら、そのアイディアを企画の形にし、実行していく試みをみよしで増やしていく必要がある。
- ②その際には、課題の設定はしっかり踏まえた上で、それを全部引き受けるのではなく、優先順位と実効性を整理し、実現可能なところから実施する。小さなことでも具体的な成果を出していき、その経



験を積み重ねていく姿勢が大切である。

## ■第3期の研修の成果

### A 最終回での行政職員・市民受講者の発表からのポイント

- ①市民の得意なことを元にアイデアを広げて企画を具体化し、その実現を行政が支えるという体験ができた。しかし、今回の共通体験が、現実の地域課題の場面で活かせるかという点では、イベントという枠の中での協働であり、一連の手法を学んだことに終始した感も残った。
- ②しかし、具体的な事業を行い、多くの人々が楽しく参加する中から市民の防災意識を高めるイベントを成し遂げたことは成果であり、貴重な成功体験であった。しかし、前述したように、事業の「目的の共有不足」があり、それが「担い手の主体性を充分引き出せなかった」という状況をつくってしまった。この点を踏まえるならば、今後、協働のまちづくりを行う上では、企画段階から市民の参加ができる仕組みをつくることが課題である。  
その際に必要になるのは、行政が持っている情報をわかりやすく提供すること、また、市民の情報を把握して発信することである。これができて、はじめて協働事業の目的が相互に理解でき、意義深い協働ができる。
- ③市民側からは、とにかく実行してみることが大切で、この事業を通して「異なる世代で協働ができること」「学生が地域貢献できること」を体得できたことは大きな成果だったと評価された。
- ④重要なのは、こうした具体的な協働の場があること。場があれば、色々なスキルを持った市民が各々の力を発揮することができる。従って、こうした場を継続してこそ、市民力の掘り起こしができ、その蓄積の元に、実際の「防災」という課題に対する市民の力を見つけ、育んでいくことにつながる。

### B Aを踏まえた、あいネットからの提案

- ①前述されたように、地域課題に取り組む上でも、また、協働のまちづくりに必要な人を発掘し、育ちあっていくにも「継続」が大切である。その意味では、「みよしを災害から守り隊」がNPOとして発足し、今後の活動が展望できる意味は大きい。この活動の中に、関わる人材が市民・行政・企業等に広がっていくことが期待される。それに向けて、協働推進課、あいネットが共に支えていくことが必要である。
- ②この協働事業は一定の条件下にあり、事業の企画・運営する際には数々の課題が生じた。この中には今後に向けて改善すべき課題がいくつか存在する。が、同時に、協働のまちづくりは制約条件や予見できない状況下で行わなければならないことも多い。従って、その中で、どのように自分自身が関わるかを主体的に考え、一歩前進する提案や実践を行うかどうか問われる。  
今回は残念ながら、実施後に、今ひとつ主体的に関われなかった旨の反省の声が多くあがった。この点で、学生ボランティアの中で、「難しい状況はあったが、自分自身の任務への向き合い方として、最後まで責任を持って取り組むようにした」という声があった。このように市民側から、若い世代から学ばせてもらうことも多い。
- ③パッククッキングの運営、消防服試着の写真撮影の経験では、今までありがちだった「市民をお客さん的にもてなす」のではなく、「主催者と来場者が祭りを一緒に楽しみ、その中で学んでいく」スタンスの必要性を感じられた場面があった。  
いわゆる「市民サービスの」な祭りではなく、協働のまちづくりの時代にふさわしい「参加者間のつながり、地域の関係性を共につくっていく」新しい祭りの典型への参考とできるのではないかと。